

## 戻る勇氣

私は、山岳部の顧問を長年務めた。顧問として、部員たちに重点的に指導してきたことがある。それは、「道に迷ったら戻りなさい」である。迷ったら、分かっていたところまで引き返すという行為は、安全登山の基本である。

残雪期、地図のルート通りに歩くことは難しい。雪解けが早い場所の登山道はしっかりとその土肌が見えるが、ルートのほとんどは雪の下に隠れているからだ。地図と現地の地形、そして時折見える登山道を頼りに、山中を進むことになる。特に下山中は、行く手を遮る藪が見えた時、歩きやすい雪の上を進んでしまい、本来のルートからどんどん大きく外れてしまうことがよくある。

顧問となって間もない頃のことである。残雪多い五月の鳥海山を部員たちだけで下山中、ルートから外れて、尾根を一つ隔てた隣の沢に入ってしまうという事件が起きた。幸い、無線機で連絡がつき、事なきを得たが、指導する私の大きなミスであった。



キャプテンにその時の様子を聞いた。間違いに気づき、地図上のルートへと修正するためにショートカットすることを決断した。水平に尾根を越えようと、灌木の密生する藪を進んだと言う。下ってきたばかりの斜面を登り返すのは、嫌だし、スマートではないような気もする。しかし、道を見失ったら、分かっていたところまで戻るほうが、安全である。その決断は、リーダーの責任でもある。

自分の進む道が、予定外の方向に行きそうだと気づいた時、引き返すという選択をすることは、意外と難しい。それまでの行程を否定するような気もするし、メンツもある。そしてなにより、疲れる。もちろん新たな進路を策定するのも一つの方策である。しかし、最初に決めた進路を大切にしたいという気持ちが勝るのであれば、確信や自信を持てる所や、初心に立ち返ることがベターである。

戻る勇氣を決断するのは、早いうちがいい。

